

令和 7 年度

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2790800292		
法人名	医療法人 嘉誠会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム ヴァンサンク ソレイユ		
サービス種類	(介護予防)認知症対応型共同生活介護 (介護予防)短期利用認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪市東住吉区湯里1丁目18番12号		
自己評価作成日	令和8年2月28日	評価結果市町村受理日	令和8年4月14日

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

[https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2790800292-00&ServiceCd=320](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2790800292-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27 (PLP会館3階)		
訪問調査日	令和8年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人にて医院が母体のグループホームであり、医療職との24時間オンコール体制、緊急時の場合も連絡、対応が行えるようになっております。またソレイユでは、1. 皆が居心地よく安心して暮らせる思いやりのあるホーム作り 2. その人らしく自分らしく過ごせる生活作り 3. 互いを認め合い頼り合える関係作り 4. 地域と触れ合い活気ある開かれたホーム作り 5. 真心こもった「だいじょうぶだー」「まかしとき」精神という理念のもと、1人1人の入居者を深く理解し、いつまでも自分らしく穏やかに過ごしてもらえるよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ヴァンサンク ソレイユ」はフランス語で「25の太陽」。1日を超えて25時間、利用者も職員も太陽のように輝きたいとの思いから名付けられました。昔ながらの寺や神社、畳屋などが点在する風情ある住宅街にあって、医療法人が運営する2ユニットのホームです。街に溶け込むモダンな建物の1階と2階にあり、ユニットの扉を開けると、柔らかな陽射しが注ぐ快適な住空間が広がります。徒歩圏内には系列の病院や老人保健施設、各種介護関連施設があり、ホームでは協力医療機関の医師や看護師、理学療法士等とも連携してチームケアに当たっています。また、看取りにも対応し、昨年は「もっと利用者さんの思いに寄り添いたい」という職員の声を尊重し、利用者と個別に関わる時間を増やしました。「ここは家ではないし私たちは家族ではない。けど、出会えた限りは最後まで笑顔になってもらえるよう切磋琢磨しています」と話す管理者。理念の一部にもある「だいじょうぶだー」「まかしとき」という言葉が、職員の行動や家族のアンケート等からうかがえるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は現在も各ユニット入口に提示し、家族や来客者にも目を通して理解してもらえるよう働きかけている。また入職した職員にはオリエンテーションで必ず説明し理解してもらうよう働きかけている。	法人理念とは別にホーム独自の理念を設立時に管理者らでつくりました。利用者が地域の中で自分らしく穏やかに過ごしてもらえるように、との思いを込めた5つの柱で構成する理念は、ホーム名に由来するヒマワリの写真と共に1階玄関と各ユニットの玄関に掲示しています。管理者は入職時のオリエンテーションをはじめミーティングや会議時に職員に話し、ケアに活かしています。また、家族等には見学時や契約時に説明しています。	ホーム理念を基にして、短い言葉で年間目標や月間目標をつくってみるのはいかかでしょうか。職員全員が作成に関わることで意識付けが深まり、理念の浸透につながります。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の小学校で催される敬老祝賀会には、毎年参加のお声がかかる為、家族と共に参加されています。しかしここ最近は大勢の方との接触による感染が不安視される為、控えている状況である。	地域の自治会に事業所として入会し、地域の敬老祝賀会には利用者宛に案内状が届きます。地域や近隣小学校の行事に参加していましたが、コロナ禍以降、中断している状況です。系列の老人保健施設で開かれる認知症カフェも、現在は参加を見合わせていますが、感染等の状況を見て参加を検討中です。地域住民に向けて認知症に関する個別相談等を随時受け付けています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、書面での形でホームや入居者の様子を伝達し情報共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍以降、書面での開催がいまだに続いている状況です。内容は現在も変わらず、入居者数や研修状況、事故・ヒヤリ発生状況、行事での入居者の様子等を報告している。	隔月毎に地域包括支援センター職員、家族、地域団体の会長らが参加し、ホームのリビングで運営推進会議を開催していましたが、昨夏にホーム内でコロナ感染があり、書面での開催が続いています。会議録には事業所の状況や行事、事故やヒヤリハット報告等も詳細に記載し、事前に集めた参加者の意見や声もしっかり載せています。会議録は参加者に送付し、玄関前に開示しています。ホームでは感染予防の観点から会場を法人の会議室に移し、対面での会議開催を検討しています。	運営推進会議の対面開催に期待がかかります。家族があっても成年後見人が付く場合は、家族だけでなく成年後見人に対して会議の開催案内と会議録の送付が望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて、東住吉区役所や大阪市高齢福祉課また同法人内の地域包括支援センターの担当者へ連絡し相談事や質問等を行っている。	運営推進会議に地域包括の職員が参加するほか、必要に応じて大阪市高齢福祉課や区介護保険課の職員に連絡や相談しています。管理者は2カ月毎に開催される区のグループホーム連絡会に参加し、同業者とも積極的に情報交換や意見交換を行っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回、身体拘束適正化委員会を開催し、当ホームの指針の内容を委員会メンバーで確認し合いながら、入居者へのケアをひとつひとつ見直し改善に向けて取り組んでいる。	法人で合同開催する身体拘束適正化委員会のほか、ホーム内でも2カ月に1回、身体拘束・虐待防止委員会(生活リスク検討委員会)を開催し、身体拘束をしない取り組みについて話し合っています。今年度は「身体拘束適正化の指針」の読み上げも行い、改めて身体拘束の定義について話し合いました。また、職員が準備した資料を用いて書面研修や動画研修を行い、レポート提出も実施しています。現在、身体拘束はありません。1階玄関とエレベーターは安全のためロック施錠しています。玄関に向かう利用者には制止せず、職員が付き添って外に出るようにしています。	職員研修で実施しているレポート提出の際に、管理者がフィードバックしてはいかかでしょうか。職員のモチベーションアップにつながります。また、虐待防止と併せた研修の一環として「ストレスチェック」を実施するのはいかかでしょうか。医療法人の強みを活かしたメンタルケアに期待がかかります。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内にて定期的に虐待防止委員会を開催しており、当ホームでも研修を行い、学ぶ機会と虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、3名の入居者が成年後見人制度を活用しており、今後においてその制度を利用希望のある方には関係者から助言をもらいながら説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にホーム内見学と料金説明を行いご了承してもらっている。また契約時には契約書と重要事項説明書を読み上げ、都度理解を得れているか確認しながら説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に来られた際、また電話連絡した際には各入居者の現状を報告し、ご家族にも疑問点や要望がないか聞き取りを行っている。	利用者には職員が日々のケアの中で直接、要望を聞いています。家族に対しては面会や電話の際に、職員から日々の様子を伝え、要望や疑問点はないかを尋ねています。書面による運営推進会議には家族から感想や意見が寄せられています。寄せられた声は職員間で共有し、ケアに反映しています。また、毎月の請求書の送付時に、介護計画担当者のメッセージを添えて家族等に送っている日々のスナップ写真は、離れて暮らす家族の安心感につながっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各フロアで毎月開催しているユニット会議や日々の朝礼時等で意見交換をする機会を設けている。また各フロアのユニットリーダーから日々報告をもらいながら現状把握に努めている。	職員は朝礼や毎月のユニット会議等で意見や提案をしています。現場業務にも従事する管理者は職員の状況や気持ちを把握しており、職員は意見を述べやすい環境です。会議時に話しにくい意見等は、相談室で個別に聞くなど臨機応変に対応しています。イベント企画や研修の資料づくりも職員主体で行っています。「もっと利用者に関わりたい」「利用者の思いを叶えたい」等、職員から出た要望に応え、業務の見直しを行いました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、他事業所の管理者が集まったの会議を開催している為、その際に当ホームの現状を報告し情報共有に努め、必要に応じて助言をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の学びの場として活用していた「人材育成開発室」が昨年度閉鎖された為、ホーム内での研修を通して力量把握と資質向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東住吉区内のグループホーム連絡会に参加し情報共有、ネットワーク構築に努めている。ただし、職員不足や現場フォローにより毎回参加できている訳ではないので、改善に努めていく。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にはご自宅や施設に訪問しアセスメントを行い、ご本人の困っていることや不安要素、要望を聞き取りし、関係者からも現状を聞き取った上で関係性に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の段階からご家族の要望を聞き取りしている。またホームの見学に来てもらった際にも新たな要望等はないか確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に得た情報やご家族の要望等を基に暫定のケアプランを作成しご家族に説明しながら、内容に不備はないか確認を行っている。また同法人内のリハビリやマッサージも活用している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各入居者が「出来ること」「出来ないこと」を職員が見極めた上で、食器拭きや洗濯物たたみ等の作業を一緒に行い、それらを生活リハビリとして捉え実践している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会や外出外泊、外食等を通してご家族の存在を重要視し、職員も現状報告や相談・要望等を伝えながら、関係性を築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者ご本人やご家族から得た情報「家族アンケート」を基に、馴染みの場所や人、趣味、特技、好きな歌等を把握し、日々のケアに繋げている。	入居時に家族が記入する「家族アンケート」には、利用者の成育歴や趣味や嗜好のほか、印象的な思い出など詳細な情報が記載されています。職員はこれらの情報や入居後に新たに得た情報を共有し、利用者が大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援しています。毎朝食卓で新聞を読んだり、居室で趣味の編み物をしたりする利用者もいます。正月には職員と一緒に年賀状をつくり、家族や大切な人に送っています。携帯電話を使用する利用者には、架電等の支援も行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の食事の座席は各々決めています。レクレーションや余暇の際には出来る限り入居者に集まってもらい職員が間に入りながら交流し、良い関係性の維持に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後においても、ご家族より電話や来館にて現状の様子を報告していただく等、関係性は大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人希望あれば出来る限り応えている。困難な方は本人の不利益とならないような対応を考えて実践している。	「その人らしく自分らしく過ごせる生活作り」はホームの理念の一つです。今年度は特に利用者の思いや要望に耳を傾け、寄り添うことができるよう業務の見直しを行いました。意思疎通に難しい利用者にも二択の質問を投げかけるなど、できる限り意向確認をするほか、家族や職員間から得た情報を共有して本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用があれば具体的な内容の情報を集めている。本人が今まで培ってきた暮らし方には出来るだけ沿えるよう支援しており、無理に日課にあてはめないよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できる能力を維持できるようにスタッフから声をかけて行ってもらっている。以前できていた事ができにくくなっていれば情報を共有しできるような工夫した対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	安心して生活が送れるように意見交換してケアプランへ反映している。モニタリング評価で本人の様子と新たな課題を検討、共有している。	「利用者や家族の思いや意向を大切にした介護計画」を目指しています。職員は日々のケアを通じて介護計画に挙げられた個々のサービス目標を毎日モニタリングし、毎月のユニット会議で話し合う中で計画作成担当がチェックし、3か月に一度、もしくは必要に合わせて見直しています。利用者を中心に据え、家族や職員、医療関係者を含めたチームでつくる、一人ひとりの現状に即した計画になっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケア内容のモニタリングと記録、スタッフ間でのやりとりで本人の様子、ケア内容について話をし、必要時は介護計画を見直したり本人に適したケアの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰りたい言葉があった時はご家族に連絡し声を聞いてもらったり外出の機会などニーズに対応している。福祉用具は業者から物がレンタルできればお試しで使い購入という流れで対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員不足により積極的に地域活動を行えていない現状にある為、課題として挙げられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>近隣に母体の医院がある為、定期的な往診や必要に応じて受診できる体制は整っている。協力医療機関以外の病院の受診は基本ご家族に協力してもらっている。</p>	<p>母体医療法人のバックアップにより、質の高い医療連携体制を構築しています。協力医療機関による週1回の定期訪問に加え、随時の受診や相談が可能な「かかりつけ医」としての機能が定着し、訪問看護による24時間のオンコール体制とあわせ、日常的な健康管理から緊急時対応まで迅速な連携を図っています。さらに、歯科衛生士による月1回の口腔ケアや3カ月に1度の理学療法士による評価を生活リハビリへと反映し、鍼灸マッサージも含めた多職種によるアプローチにより、利用者の心身機能の維持・向上に取り組んでいます。</p>	
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>法人内の訪問看護と24時間連絡体制を確保できており、日中は母体の医院の医師や看護師にいつでも相談できる環境にあり、都度助言や指示を仰いでいる。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は当ホームから介護サマリー、母体の医院から看護サマリーを作成し情報提供を行っている。入院中もソーシャルワーカーと密に連絡を取り情報共有に努めている。退院前カンファにも出席し退院後も安心して生活できるよう支援している。</p>		
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期のあり方については、入居契約時に「看取りに関する指針」を基に説明し現時点でのご家族の意向を確認している。また重度化した際にあらためてご家族の意向を確認している。</p>	<p>「看取りに関する指針」に基づき、入居時より延命治療等を含む終末期に対する意向確認を丁寧に行っています。状態変化の都度、本人や家族との対話を重ね、望む場所での暮らしを維持できるよう、医療・介護専門職が連携して多角的に支援し、緊急時の判断基準も共有して、安心感のある体制を整えています。最期まで穏やかに過ごせるよう、職員は訪室頻度を高めるなど、個別の関わりを重視した「悔いのない看取り」への真摯な姿勢は、看取り後の振り返りを通じ、日々のケアの質向上へと繋がっています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時は母体の医院や訪問看護ステーションへ連絡し指示を仰ぐシステムは職員皆理解できている。救急搬送時においてもマニュアルを基に対応できている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCPを基に年に2回訓練を実施。訓練後に出た感想や課題等を情報共有し今後の対応に繋げている。また法人内の全体訓練にも参加している。	同法人の介護老人保健施設に災害本部を設置し、近隣に点在するグループ施設間での相互支援体制を構築しています。法人全体での研修や、策定済みのBCP(事業継続計画)に基づく定期的な訓練を通じ、有事の職員参集等の具体的課題を抽出・共有しています。今後はこれらを反映させ、より実効性の高い計画へのブラッシュアップを図る方針です。地域住民との補完し合える連携体制を理想に掲げつつ、備蓄品の期限管理を利用者との「試食」に繋げるなど、日常の中に防災意識を取り込む工夫もしています。1階倉庫での一括管理を含め、多角的な防災・減災対策に努めています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇についての研修は定期的実施し職員の理解、意識向上に努めている。また朝礼や排泄の確認等では入居者の名前ではなく居室番号で伝え合い入居者へのプライバシー保護に努めている。	動画研修の定期実施に加え、「利用者体験」を通じたロールプレイングを取り入れ、声のトーンや駆け付け時の配慮など、受ける側の視点に立った接遇の共通認識を深めています。管理者は不適切な場面に対しても、時間と場所を選んだ適切な注意喚起を行っています。言葉遣いにおいては、過度な敬語を避けた親愛の中にも、年長者への敬意を失わないバランスを重視しています。管理者の「出会えた縁を大切に」姿勢が現場に浸透しており、利用者一人ひとりの尊厳と温かみのある雰囲気両立させています	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自ら希望を表現できる方は都度話しを聞き対応している。それ以外の方については一つ一つ確認したり表情等を汲み取りながら職員間で意見を出し合い各々に合った自己決定に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のおおまかなタイムスケジュールはあるが、それに固執せず出来る限り入居者1人1人に合ったペースで過ごしてもらえよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ビューティタッチセラピストの資格を持っている職員がいる為、催しや外出前にメイクをすることで入居者も喜ばれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつレクや料理レクを実施した際には、下ごしらえの段階から入居者と協力して行っており、食器拭きやテーブル拭き等の後片付けも入居者の負担にならないよう配慮しながら行っている。	栄養バランスに配慮した湯煎調理の献立を基本に、ユニットでの炊飯や陶器風の食器を採用することで、視覚・嗅覚からも食卓の満足度を高めています。個々の咀嚼・嚥下状態に応じたソフト・ミキサー食にも柔軟に対応しています。食前のラジオ体操や献立の読み上げを日課とし、心身ともに和やかな準備時間を共有しています。月1回の食事レクリエーションでは、寿司や中華などのテイクアウトを活用した「外食気分」の演出に加え、お好み焼き等のメニューでは利用者が調理に参加しています。誕生日会のケーキのデコレーションなど、「作る楽しみ」「集う喜び」をも大切に支援を展開しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々のケア記録に入居者の食事・水分量を残り摂取量の把握に努めている。食事形態や食事量も各々に合わせて設定している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各々の口腔状態や能力に合わせて口腔ケアを実施し、協力医療機関の歯科の衛生士に定期的に口腔指導や口腔ケアをしてもらっており、指導や助言をもらい日々のケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に排泄状況を記録し各々の排泄パターンの把握に繋げている。概ねトイレでの排泄を行っているが、身体機能面が低下した方はご本人の負担軽減も配慮している。	一人ひとりの排泄パターンや兆候を把握し、タイミングを捉えた「さりげない声掛け」によるトイレ誘導を実践しています。紙パンツ等の使用時も、今持つ力を大切にしながら尊厳と自信を損なわない介助を徹底しています。夜間は良質な睡眠の確保を優先し、パット交換のタイミングを図ったり、個別に対応しています。自発的なトイレ歩行に対しても、安全性を確保した見守りを行っています。また、皮膚状態に合わせた適切な用品選択や、居室やトイレ内に必要物品を常備することで「待たせない支援」につなげるなど、心身両面から不快感の軽減と自立維持に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方は同法人内の訪問看護師や薬剤師と相談しながら適宜下剤の調整を行っている。また腹圧をかける、前方に屈んでもらうことで排出に繋げている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2日の入浴を基本に、入浴の予定はスタッフが組んでいるが、拒否の方は時間や日をずらす等工夫している。湯船に浸かるのが困難な方は足浴を行う等配慮し少しでも温まってもらえるよう努めている。	並行する2本の廊下に挟まれた浴室と脱衣室は、他の共有スペースから独立しており、プライバシーに配慮した静かな環境となっています。家庭用浴槽を完備した浴室は、木目調を取り入れ、リラックスできる空間です。居室からアクセスしやすい動線は、利用者への負担軽減と、職員による安全・確実な見守りを可能にしています。職員と1対1で行う入浴では、好みの音楽を流したり、ゆっくりと会話を楽しむなど、プライベートな時間を大切にしています。自身で洗身・洗髪ができる方には「見守り」に徹し、自尊心を尊重しています。柚子湯などの季節行事や好みのシャンプー類の使用を通じ、心身の充実を図っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各々の体力に合わせて日中も休憩時間を設けながら、夜間不眠や昼夜逆転にならないよう配慮している。寝つけない方には、リビングで話を傾聴したり飲み物を提供する等して睡眠に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情やお薬手帳を保管している為、職員が随時確認できている。また症状の変化にすぐに気付けるよう経過観察を行い、変化があればすぐに医療職に報告し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の能力や嗜好に合わせて、新聞やテレビ、レク活動を通して、刺激や楽しみ、入居者の笑顔や楽しみに繋がるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員不足により現在も積極的に外出支援は行えていないが、その代替えとしてホーム内での催しや料理レク等で楽しんでもらえるよう努めている。桜の花見や年始には近所のお寺にご家族と共に参拝したりと可能な限り外出支援は行っている。	近隣への散歩や受診機会を捉えた外出など、生活圏を広げる機会を徐々に増やしています。限られた人員体制の中、個別の要望への対応には課題があるものの、室内での多彩なレクリエーションを工夫し、日々の生活に変化を創出しています。リビングから続くウッドデッキを有効活用し、移動の負担なく季節の風や陽射しが自然に感じられる環境を整えています。近隣に居住する家族の協力を得た気分転換の散歩や、桜の季節には校区の小学校、近隣住宅地への花見散歩を計画するなど、地域資源を活かし、社会との接点を維持しつつ季節の移ろいが感じられる支援に努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在1人の入居者が小銭入れを常時所持しておられ、ご本人の安心に繋がっている。嗜好品や消耗品等は概ねホームで立て替えて購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの希望やご家族から電話がかかってきた際は、相手の声が聞こえやすいよう居室に案内したり、会話のやり取り等をサポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その都度明るさや空調等を調整している。またリビングのテレビの上にある戸棚に季節に合わせて装飾を飾り、季節感を味わってもらえるよう工夫している。	オフホワイトとナチュラルウッドを基調としたリビングは、開放感と落ち着きが共存する空間となっています。1階ユニットはリビングから広々としたウッドデッキへと視界が抜け、2階ユニットは天窓からの自然光が射し込むなど、採光と風通しに配慮した設計が特徴です。過度な装飾を省き、大型収納の活用により生活動線をすっきりと確保しています。各ユニットのイメージカラーを取り入れたソファが、共有スペースに温かなアクセントを添えています。大型モニターでは、大相撲や野球観戦で一体感を味わうほか、インターネットを活用した多彩な映像・音楽も楽しんでいます。昼食時の落ち着いたBGMや体操の導入など、「和やかな住空間」と「活気ある生活」のメリハリを創出しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	普段の食事の座席は各々決めています、レクレーションや余暇の際には出来る限り入居者に集まってもらう等工夫している。また居室やソファスペースもある為、そこで独りでのおんびりと過ごす方もおられます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族には居室で過ごしてもらうにあたり、家具や写真、テレビ等、慣れ親しんだものがあれば準備していただくよう協力してもらい、少しでも安心に繋がるよう配慮している。	オフホワイトと淡いアースカラーの2色壁面は、介護用電動ベッド等の機能的な設備を備えつつも、視覚的に温かみを感じさせるように配慮しています。入り口の大きな引き戸付近には壁掛けフックを設け、お気に入りの衣服や小物をさりげなく飾り、個性を反映できる工夫があります。標準設備に加え、使い慣れた家具や調度品、大切な家族写真等の持ち込みを奨励しています。本人のこれまでの歩みや馴染みの生活環境を尊重することで、安心して自分らしく過ごせる居室づくりを支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア廊下やトイレ、脱衣場に手摺を設置し、安全に移動できるよう配慮している。また各々の居室の壁に表札を掲示しトイレの扉にも分かりやすく表示する等、工夫している。		